



2024年6月3日
聖心女子学院初等科
校長 大山 江理子
6月号

みこころの月：心で祈る、皆で祈る、ミサで祈る

校長 Sr.大山 江理子

5月・6月とプラクティスが続きます。5月はマリア様と創立者、6月はイエスのみこころに向けてプラクティスを捧げ、心を整えます。

子どもたちは学校で毎日、朝礼、お弁当の前後、帰りの会、と1日に何回か祈りを捧げています。その他にも、教える時間にも祈ります。そして、自分から進んでお祈りをすることもあるかもしれません。下校時に前庭のマリア様の像の前で何人かが集まって、大きな声で祈りを捧げる姿を目にすることもあります。

祈りには、色々な形式があります。一人でする祈り、人と共にする祈りもあれば、決まった言葉での祈り、自由な言葉での祈りもあります。言葉にならない祈りもあるでしょう。特別な機会のために時間をかけて準備した祈りを捧げるときもあれば、何か急な出来事に出遭って、とっさに祈るということもあるかもしれません。

6月のみこころの祝日行事では、初等科全員で聖堂に集まってミサを行います。ミサは司祭の司式によって行う祈りです。なぜなら、ミサはイエスの弟子たちとの最後の食事に起源をもち、弟子たちの後継者となった司祭たちにずっと受け継がれてきたものだからです。ミサの中には、「これをわたしの記念として行いなさい」というイエスの言葉が残されています。司祭を通してイエスと共に祈ります。司祭と共に聖書の朗読を聞き、司祭による話を聞き、パンとぶどう酒を捧げて祈り、信徒はそのパンをいただき、皆で共に祈り、聖歌を歌います。ミサは長い歴史を経て受け継がれてきた祈りの形式です。そして、世界共通です。ですから、たとえ自分の知らない言語でのミサに参加しても、祈る人々の姿を見てミサの進行をたどり、共に祈ることができます。

ミサに参加すると、今日はどの歌を歌うか、どのような聖書の言葉に出遭うか、神父様からどのようなお話を聞くことができるかという楽しみがあります。自分一人での祈りとはちがった味わいです。たとえ自分の気持ちちがのらなくても、気がつけば隣で友だちが一生懸命に祈っているかもしれ

ません。皆の祈りが集まって、大きな祈りとなります。以前は1年生や新入生の保護者をこのミサにお招きして、一緒に大きな祈りをお捧げしました。コロナ禍を経て、それはできなくなりましたが、どうぞお子さんにミサはどのような祈りの時だったかと問いかけてください。司祭はどのような服装で、どのような動作で祈りをしていたか、聖書はどのような話で、司祭はどのようなお話をしてくださったか、皆でどの歌を歌ったか質問してくださったら、お子さんは一生懸命思い出し、それがご家族での祈りにつながるかもしれません。6月のプラクティスとミサを通して、子どもたちがイエスのみこころを味わい、体験することを願っています。



みこころの月のプラクティス

心をこめて、関わり合おう

～～カトリックの洗礼、初聖体をお受けになった方は、連絡簿でお知らせください～～

みこころの月：6月の行事予定

1日(土)	保護者後援会幹事会	21日(金)	みこころの祝日行事(SBH)
3日(月)	～5日(水) 5年校外学習(清里)	22日(土)	第1回転入・編入学校説明会(PM)
4日(火)	6年ばら・ゆり美術館見学(PM)	24日(月)	～7月9日(火) 2～6年水泳期間
8日(土)	第1回初等科学校説明会	25日(火)	5年きく・ふじ美術館見学(PM)
11日(火)	一日学校参観日① 下校グループ親子集会	26日(水)	6年まとめテスト① 5年ばら・ゆり美術館見学(PM)
14日(金)	6年きく・ふじ美術館見学(PM)		
20日(木)	6年英単語検定(4限)		

マザーバラの教え

教頭 吉岡 真左美

初等科の運動会は、聖マグダレナ・ソフィア・バラの祝日を記念して行われます。今年はマザーバラの祝日と運動会が同日となり、まさに競技・演技を通して自分の努力をお捧げすることを意識する機会となりました。

初めに皆で『マザーバラのことば』を唱えますが、マザーバラがお考えだったことや子どもたちにお託しになったことを、改めて考えました。『やさしさを 思いやりを 人に尽くすことを』『まわりの人みんなに惜しみなく分ける』・・・これらを常に完璧に実行することは難しいですが、何かの折にそのような子どもたちの姿を見ると、マザーバラの教えが息づいていると感じ、心が温かくなります。運動会においても、互いに声をかけ合って競技や演技を頑張る姿や、担当の仕事に責任を持って取り組み、力を尽くしている姿が各所で見られました。その姿をご観覧の皆様様に褒めていただいたり、自分の仕事が誰かのためになったり感謝されたりすることで、一人ひとりの自信と達成感につながっていったのではと期待します。

皆で一緒に取り組むことで、気づきや学びがより大きくなるのが行事の醍醐味です。そして、他の学年から学ぶことも大いにあります。競技や仕事に励む上級生の姿から下級生は学び、それが“伝統”として受け継がれていくことも意味深いです。これからも行事や様々な活動の中で、一緒に経験したり学んだりすることを大切にしていきたいと思います。

保護者の皆様には、会場内や終了後の椅子片付けなど、色々な場面でご協力いただき感謝申し上げます。泉の会幹事の皆様は朝早くから集まってくださり、IDカードの確認や入場整理、椅子の脚拭きなどのお仕事をしてくださいました。テントの片付けには多くのお父様が申し出てくださり、作業上人数を絞らせていただきましたが、てきぱきと片付けていただき有難く心強く思いました。保護者の皆様のお姿も、子どもたちにとって一つのロールモデルになっていることと思います。今後も、保護者の皆様と連携して学院の教育を進めてまいりたいと存じます。宜しく願いいたします。

